

# 情報システム学会研究発表大会原稿用テンプレート

## The template for the proceeding of ISSJ 2011

青山一郎<sup>†</sup> 文教次郎<sup>‡</sup>  
Taro Aoyama<sup>†</sup> Jiro Bunkyo<sup>‡</sup>

<sup>†</sup> 青山学院大学 社会情報学部  
<sup>‡</sup> 文教大学 情報学部

<sup>†</sup> Department of Social Informatics, Aoyama Gakuin Univ.

<sup>‡</sup> Faculty of Information and Communication, Bunkyo Univ.

### 要旨

この部分に和文要旨を書いてください（目安は300字程度）。

## 1. はじめに

この文書は、Microsoft Word®（以下、MS-Word ないし Word）用の簡単なテンプレートになっています。この書式にしたがって発表予稿論文の原稿を御作成ください。また、この文書のページ設定や書式は変更しないでください。

発表者は、期日までに Word 原稿と PDF 原稿の両方を大会 WWW サイトにアップロードしてください。プログラム委員会（大会事務局）にて編集した上で電子ジャーナル形式の予稿集として本学会 Web サイトに掲載いたします。また、投稿されても、研究発表大会で発表されなかった論文は最終的に予稿集から削除されますので、御承知おきくださいますようお願いいたします。

## 2. テンプレートについて

このテンプレートでは、用紙サイズ（A4 縦置き）、余白（上下左右の余白すべて 20mm）が適切に設定されています。

タイトル、著者、所属は、レイアウト枠内に記載してください（ただし、英文の著者と所属の記載は省略可能です）。本文は、1 段組の設定がなされています。

なお、各ページのヘッダとフッタ、ならびにページ番号は、予稿集編集時にプログラム委員会（大会事務局）にて設定致しますので、変更しないでください。

## 3. 原稿の作成

MS-Word を用いる場合、Adobe Acrobat Distiller 等によって PDF 原稿が作成できます。WS-Word の版は、MS-Office2007 で読み書き編集が可能な版でお願いいたします。

なお、PDF 作成時にセキュリティロックをかけないようお願い致します（標準の設定ではロックをかけないように設定されています）。

## 4. 原稿の提出

Word 原稿と PDF 原稿の両方を提出していただくことが必要です。MS-Word(および、OpenOffice Word など、それと互換性があるソフトウェア)以外をご利用になられる御希望がある場合、

issj2011@issj.net

までご相談ください。

予稿論文原稿は、Word 原稿と PDF 原稿の両方を、大会 WWW サイトにアップロードしていただく方法で御提出いただきます。具体的な方法は、大会 WWW ページ

<http://kami.doshisha.ac.jp/issj2011/presenter>

に掲載いたしますので、よろしくお願いいたします。

## 5. 本文の書き方

本文は原則として1段組(目安は1行あたり46字)でお書きください。タイトルから本文までを含め、全体で2頁から4頁までとします。

### 5.1. フォントについて

予稿集に用いるフォントは原則としてこのテンプレートに従ってください。

フォントの種類：

このテンプレートでは、和文は見出しのみ MS ゴシック (太字)、その他は明朝体、英文はすべて Times New Roman となっています。

フォントの大きさ：

タイトル	16 ポイント
著者名	11 ポイント
要旨	10 ポイント
本文	11 ポイント

### 5.2. 図表について

図表の番号は、次頁の例を参考に図 1、表 1 などとしてください。図はカラーでも結構です。原則として、図キャプションは図の下、表キャプションは表の上に表示してください。

図表の作成例：



図 1 図の例

表 1 本テンプレートにおけるフォントのサイズ

Part	Font size (point)
Title (Japanese)	16
Title (English)	15
Author	11
Abstract	10
Body	11

### 5.3. 数式について

数式は原則として、MS-Word に組み込まれている数式エディタを使ってください。次にサンプルを示します。

$$p(\lambda|\mathbf{y}) = \frac{p(\mathbf{y}|\lambda)p(\lambda)}{p(\mathbf{y})} \quad (1)$$

数式にはこの例のように右隅に参照用の番号をつけてください。

### 5.4. 参考文献について

参考文献は本文中で引用された順に採番し、角カッコ付きで[1], [2], [3]などと表示してください。雑誌は、本テンプレートの例の[1], [2]に従ってください。

著書は、本テンプレートの例の[3], [4]に従って、和・英文ともに、

著書名, 書名, 発行所名, 発行年(西暦) [ , 頁]  
の順に記載してください。

## 6. まとめ

以上、本テンプレートにしたがって原稿作成をお願いいたします。不明な点については、

issj2011@issj.net

まで、お問い合わせください。

### 参考文献

- [1] 斎藤一, 大内東, “組織評価における能力成熟度モデルの適用——観光関係部局の調査結果について”, 情報処理学会論文誌, Vol.45 No.3, 2004, pp.809-812.
- [2] Harker, P.T. and Vargas, L.G., “The Theory of Ratio Scale Estimation: Saaty’s Analytic Hierarchy Process,” *Management Science*, Vol.33, 1987, pp.1383-1403.
- [3] 野中郁次郎, 竹内弘高, 知識創造企業, 東洋経済新報社, 1996.
- [4] Kleinrock L., *Queuing Systems, Volume 1, 2*, John Wiley & Sons, Inc., 1975, 1976.